

でん粉原料用サツマイモ「こないしん」の種イモ伏込み間隔と本圃での栽植密度

「こないしん」の栽培では、種イモの伏込み間隔は20cmが適し、本圃での株間は40～50cmで収量差はない

背景・目的

- ・平成30年度にでん粉原料用サツマイモの新たな奨励品種として「こないしん」を採用
- ・「こないしん」は「シロユタカ」に比べ多収でつる割病や基腐病に強いが、萌芽本数が少ない
- ・「こないしん」の栽培方法(伏込み間隔, 栽植密度, 栽培日数)に関する情報が必要

成果の内容

○苗床

- ・「シロユタカ」並の採苗本数を確保する種イモの伏込み間隔
→伏込み間隔20cm(図1, 図4)

○植付け

- ・株間は40～50cmで、上いも収量は同等(図2)
- ・4月植えでは「シロユタカ」よりも収量, でん粉重が多い(図3)

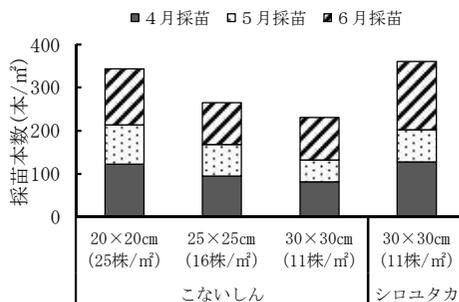


図1 種イモ伏込み間隔と採苗本数

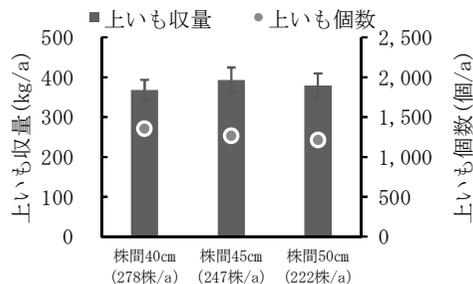


図2 株間と収量(畝幅90cm)(4月植えマルチ栽培)

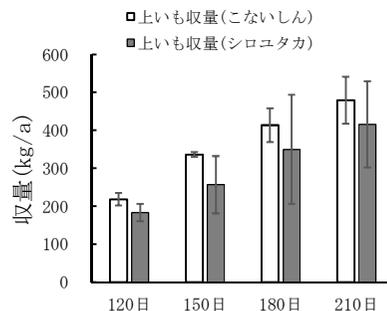


図3 栽培日数と上いも収量(4月植えマルチ栽培)

期待される効果

- ・適正な伏込み間隔で、採苗本数の確保
- ・適正な栽植密度で、収量, 植付面積の確保
- ・品種に応じた栽培技術の普及
- ・「こないしん」の普及促進
- ・「こないしん」の普及で、でん粉原料の確保



図4 苗床(伏込み間隔20cm)

○普及対象・範囲
本土・熊毛地区のでん粉原料用サツマイモ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
大隅支場園芸作物研究室
共同研究(大隅加工技術研究センター)

公募(イノベーション創出強化研究推進事業29028C)